

キコニアレター

2019.9.30 発行 No. 2 1



兵庫県立コウノトリの郷公園から みなさんへ



兵庫県立コウノトリの郷公園
園長

EZAKI Yasuo
江崎 保男

平成は、国の特別天然記念物コウノトリが保護・増殖から野生復帰へと大きな進展をみせた時代でした。まず、ロシアから寄贈された雌雄がつがいを形成し、平成元年に飼育下繁殖に成功しました。飼育個体が順調にその数を増やし、現在の約100羽に達する一方で、平成17年に開始した再導入（放鳥）により野に放った個体が、平成19年には野外繁殖に成功しました。それ以降、野外での繁殖は順調に進み、平成29年には個体数が100を超えるつがいが、野生復帰の中心地、但馬地域では10を超えるつがいが、今では安定した繁殖個体群を形成しています。またこの年には、北近畿以外で初となる繁殖が徳島県鳴門市で成功し、翌年には鳥根県雲南市がこれに続くなど、「国内メタ個体群構造の構築」に向かって力強く踏み出しています。

昭和の時代を振り返りますと、昭和46年に国内のコウノトリは野生下では見られなくなり、国内個体群が絶滅しました。兵庫県教育委員会は県鳥コウノトリの生息地であった但馬地域・豊岡市において、昭和40年からケージでの飼育を開始し、地域の皆様のご協力を得ながら、かつ文化庁の多大な支援をいただいで、半世紀以上にわたってコウノトリの保護・増殖・野生復帰に努めてまいりました。飼育個体の死亡や飼育下繁殖の失敗など、苦難の時代もありましたが、平成に入ると前述のように、大きな進展をみせたわけです。

兵庫県立コウノトリの郷公園は、コウノトリが生き延びける環境が人にとっても安全・安心で豊かな環境であるという認識のもと、人とコウノトリが共生できる環境と学習の場を提供することを目的として、平成11年に設立されました。この目的を達成するために、「コウノトリの種の保存と遺伝的管理」「野生化に向けての科学的研究及び実践的試み」「人と自然が共生できる自然環境の創造に向けての普及啓発」の3点を基本方針に位置付け、コウノトリの飼育・増殖、野生化に向けての研究・環境づくり、環境教育に取り組んでまいりました。そして、平成23年8月に「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」を策定し、以降これに沿った事業を現在まで展開しています。

また、平成26年には敷地内に兵庫県立大学大学院「地域資源マネジメント研究科」が開設され、本格的な研究活動も始まっています。令和となるこれからの時代におきましても、地域住民の皆様はもとより、関係機関のさらなるご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

コウノトリの個体数 (2019.9.20 時点)

飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	28	34	1	63
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	16	14	1	31
養父市伊佐拠点	0	0	0	0
朝来市三保拠点	0	0	0	0
計	44	48	2	94

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
リリース	18	15	0	33
野外巣立ち	34	68	0	102
野生・由来不明	0	1	0	1
他府県リリース	11	5	0	16
他府県巣立ち等	16	17	0	33
計	79	106	0	185

時のたつのも忘れて見入る風景： 現代に蘇る「鶴見茶屋」



現代の鶴見茶屋からの風景

コウノトリの郷公園のなかに新設された「山頂あずまや（＝現代の鶴見茶屋）」に、神戸から訪ねてきた友人と登りました。5月2日のことです。新緑の小道を歩いて10分。眼前の人工巣塔では、ちょうどコウノトリが子育てをしている時期で、親鳥が巣塔のまわりに広がる田んぼで餌を採り、せっせとヒナに与えていました。その様子を目で追いながら、しきりに感心していた友人は、巣塔が立つ祥雲寺集落の家並や里山を見渡して「高いところから見ると、コウノトリが地域に溶けこんでいるな。ああ、いい景色やな」としみじみとつぶやいたのです。私が相槌をうち、およそ50年前に野外で一度は絶滅したコウノトリを飼育下にとりこんで繁殖させた人々の営為や、あたり一面の田んぼは祥雲寺の営農組合によって農業に頼らない「コウノトリ育む農法」で耕作されていること、その農法の開発にあたって祥雲寺の人々がどれほど試行錯誤したかなどについて話すと、友人は眼下に広がる風景にさらに感じ入ったようで、もう一度コウノトリや田んぼに目を凝らしたり、隣の家族連れと眺めをめぐって談笑したりしていました。友人と家族連れは1時間ほど風景を味わっていたのでしょうか。コウノトリも暮らす豊かで華やかな自然とつながり、交感する濃密な時間が流れていました。

私は、友人と家族連れが眼下の風景に深く魅せられて時のたつのも忘れていた姿をみて、かつて豊岡市出石町にあったコウノトリの営巣地が「鶴山」と呼ばれ、そこにできた茶店での人々の様子を想像していました。明治時代に入り銃猟などによる乱獲でコウノトリが全国的に減少するなか、明治25年、出石鶴山のコウノトリに限って保護の対象となりました。当時の人々にとって、コウノトリとツルの区別は明確ではなかったようですが、日露戦争が始まった年、鶴山にコウノトリが営巣を始めると戦勝の「瑞兆」として珍重され、大勢の見物人が茶店に押し寄せたようです。『神戸又新日報』（明治44年5月22日付）の紀行記事には、茶店から見える老松につくられた巣で、「親鶴の下には愛らしき雛鶴の四羽までが育てられてる」とあり、記者は「鶴山の巣籠許りは下山を忘れて誰れも日の傾くことを知らぬとは眞實である」とまとめています。茶店からの眺めは、時のたつのも忘れさせるほど魅力をもつものだったのでしょう。

ところが、出石鶴山の松林は太平洋戦争中、松根油などを得るために破壊され、但馬各地で繁殖していたコウノトリも戦後には餌動物の農業汚染などによって徐々に少なくなっていきます。やがてコウノトリが自然のなかで餌を採り、ヒナを育てる風景は失われました。しかし野生復帰の進展によって、今や日本の大空を翔けるコウノトリは180



兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科 教授
兵庫県立コウノトリの郷公園
ソシオ研究部 主任研究員

YAMAMURO Atsushi
山室 敦嗣

羽を超え、繁殖地も兵庫県のみならず徳島県や島根県、福井県などへも広がっています。コウノトリが子育てをする田園風景が各地で蘇っているのです。

このたび新設された山頂あずまやでは、コウノトリと水田と地元の人々とのつながりを一目で実感し、自然と人間とのかかわりの来し方行く末に思いを巡らせることができます。そこは、自然と深く交感する場所として私たちの精神世界を豊かにしてくれるでしょう。



出石鶴山(大正～昭和初期の絵葉書より)



眼前の人工巣塔のコウノトリ



風景に見入る人びと

No.17
RRM
[コラム]
column

軒しろき月の光に山陰の
闇を慕ひてゆく蛍かな（『玉
葉集』、後鳥羽院宮内卿）
年度始め特有の緊張感や
慌ただしさが薄れたすこ
ろ、キャンパスには蛍があ
らわれる。はじめての合同
ゼミを控えて、夜遅くまで
準備にいそしむ学生も多い
ころ。煌々とした「月」な
らぬ研究室の灯を避けるよ
うに、闇に沈んだ小川を蛍
火が舞う。

望鶴生

the 20th anniversary

開園20周年を迎えてリニューアルしました！

兵庫県立コウノトリの郷公園は今年、開園20周年を迎えます。
それを記念し園内施設を一部リニューアルしましたので、ご紹介します。



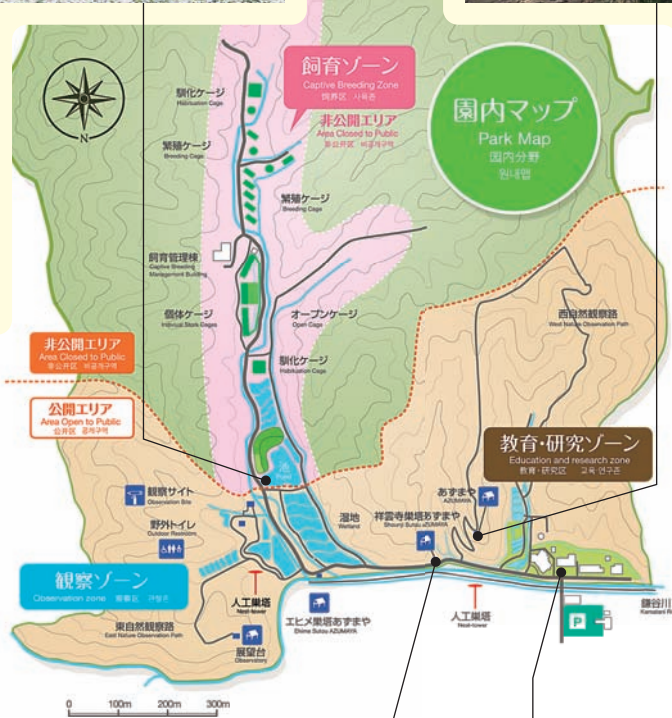
ドーム型ケージ

約束のケージをイメージしたドーム型ケージが今年の秋に完成予定です。このドーム型ケージは非公開エリア内に設置されますが、公開エリアからも飼育されるコウノトリのペアを間近で観察していただける予定となっています。



鶴見茶屋 山頂あずまや

現代の鶴見茶屋として、山頂に設けられました。眼下には祥雲寺の風景が広がり、春の繁殖期には巣塔の上からコウノトリの子育ての様子も観察することが出来ます。また山頂あずまやへ続く登山路では、四季折々の植物や野鳥、昆虫など、里山の豊かな自然観察も楽しめます。



祥雲寺巣塔あずまや

東公開エリアへ続く遊歩道の道中に設けられました。おもに、学校団体に向けた環境学習での授業の場として使用されます。手足洗い場も設置しており、散歩や自然体験の休憩などにも使用していただけます。また、目の前には鎌谷川が流れ、その先には田んぼが広がっており、祥雲寺巣塔があります。川のせせらぎとともに、季節によってさまざまな生き物の声を聴くことができます。



総合案内板

以前の案内板より約3倍も大きい新デザインにリニューアルしました。郷公園の魅力が目一杯伝わるような案内板です。屋根には、郷公園の建物にも使用されている、「いぶし瓦」を使用しています。

退任のご挨拶



名誉園長
山岸 哲
YAMAGISHI Satoshi

兵庫県立コウノトリの郷公園に私が就任したのは、秋篠宮ご夫妻をお迎えしての、あの記念的な初放鳥から5年目、百合地巣塔での野外初巣立ちから3年目にあたる2010年のことでした。兵庫県人でもない私がお引き受けていい役割かどうか、多少のためらいはありました。しかし、兵庫県のこの事業については、郷公園が開設する以前の1995年から2007年まで「コウノトリ保護増殖対策会議」の座長を10年以上務めていたので、コウノトリ野生復帰の理念や進め方については、ほとんど理解はしていたつもりです。

いきさつをよく承知していただだけに、着任直後に感じたのは、初放鳥当時の「放しても、うまく居着いてくれるだろうか」、「居着いたとしても、繁殖に成功してくれるだろうか」といった、あの緊張感がだいぶ薄らいでいたことでした。「定着と繁殖の成功」にともなって、何となくある種の安堵感や倦怠感が漂い始めていたのです。これは、「放鳥がうまくいくこと」、「野外での繁殖がうまくいくこと」をまずは最大の目標としてきた郷公園や地域の方々にとっては当然のことだったのかも知れません。

就任して、まず必要だったのはコウノトリ野生復帰の最終目標（ゴール）を設定することでした。幸い、試験放鳥期間の野外での繁殖データも蓄積し始めており、それらを分析することによって、長期にわたる目標を立てることが可能な時期にも来ていました。優秀なスタッフにも恵まれ、こうして着任の翌2011年には「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」を完成させることができたのです。

その後のコウノトリ野生復帰の進展は目を見張るものがありました。今年の9月現在で、全国で野外に生息するコウノトリの数は180羽を超え、兵庫県以外にも新しい繁殖地が複数の県にできました。こうした成果を上げることができたのも、郷公園のスタッフの方々及び地域の方々の熱いご支援があったからこそと心から感謝しております。今後も世界に類を見ないこの社会教育施設「コウノトリの一大テーマパーク」の発展を遠くから見守らせていただきたいと思います。長い間、ありがとうございました。

城崎マリンワールドで コウノトリ動画上映

今年4月25日に城崎マリンワールドの新施設、「日和山海岸ミュージアム」がオープンしました。

「日和山海岸ミュージアム」は生きものたちが繁殖し、育ち、増えることで、野生群を蘇らせ、未来へ向けて種の保存につなげていきたいという想いから生まれた施設とのことです。この施設では城崎マリンワールドの職員の方々と生きものたちの、「いのちの活動記録」と「驚きのエピソード」が数多く紹介されています。

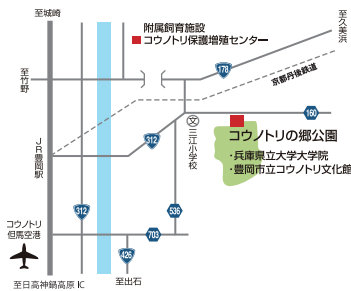
施設内は大きく分けて3つのゾーンで構成されており、その中の1つである「地域メッセージゾーン」で、コウノトリの野生復帰プロジェクトについてご紹介いただいています。

この映像の中には郷公園が提供したものが使用されています。1時間に3回（20分毎）放映されますので、ぜひご覧ください。



ACCESS

- ◎自動車で
神戸から【約2時間30分】
姫路から【約2時間】
最寄り日高神鍋高原ICから約30分
- ◎公共交通機関で
JR山陰本線「豊岡駅」から約4.5km
全但バス（コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き）
コウノトリ但馬空港から約12km



編集後記

今年は兵庫県をはじめ、京都府、徳島県、島根県の他に、鳥取県と福井県が野外コウノトリの新たな繁殖地として加わりました。国内の野外コウノトリは185羽（9月20日時点）となり、今後もさらに繁殖地が増えていくことが期待されています。そんな中で、皆様のコウノトリについてのご理解と協力が必要不可欠です。自然解説員として、より多くの方々の心を掴めるような情報発信やイベントを企画するために、一層の努力を続けていかなければと身が引き締まる思いです。

さてキコニアレターNO.21はいかがでしたでしょうか。今後もキコニアレターをより盛り上げていくために、皆様のご意見や感想をお聞かせいただくと幸いです。

最後までご覧いただきありがとうございました。（自然解説員 舟木愛美）



兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺字ニヶ谷128 tel: 0796-23-5666 fax: 0796-23-6538

開園時間：9：00～17：00
休園日：毎週月曜日
（休日に当たるときはその翌日）
12月28日～1月4日

e-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp
facebookページ : https://www.facebook.com/satokouen/

